

入選

大きな親切

山口県 岩田小学校

4年 富島歌乃

去年の夏、私たちの住む地いきで毎年こうれいのお祭りがありました。私はお母さんとおばあちゃんといっしょにそのお祭りに行きました。夕方になっても、とても暑かったけれど、夏休み中に会えないお友達に会えて、私はとても楽しくていろいろなお店をお友達と回っていました。私がおばあちゃんのところにもどると、お母さんも久しぶりに会ったお友達とお話をしていました。

しばらくおばあちゃんと2人っていると、おばあちゃんが、

「ちょっと気分が悪い」

と言いました。私が、

「だいじょうぶ？」

と心配していると、みるみるおばあちゃんの調子が悪くなっていき、その場にしゃがみこんでしまいました。私は、お母さんと呼びました。でも、どんなに大きな声で呼んでもお母さんに声が届かず、どうしていいか分からなくて涙が出てきました。

私が泣いていると、たくさんの人が気づいてそばに来てくれました。私のお友達のお母さんは、私に、

「だいじょうぶだからね。」

と声をかけてはげましてくれました。お兄ちゃんのお友達のお母さんがかんごしさんなので、おばあちゃんのお世話をしてくれました。ほかにも、お母さんを探して声をかけに行ってくれた人、おばあちゃんにイスやお水を用意してくれた人、うちわであおいでくれた人、たくさんの人がたすけてくれて、私はとても心強かったです。

家に帰っても、そのときのことがうかんできました。だれが言ったわけではなく、その場にいた人が自分ができることを、自然に行えたことに心が温かくなりました。私も、だれかがこまっているところを見かけたことがあります。そのときは「知らない人だし」「はずかしい」「だれかたすけてくれるだろう」「私にできることはないだろう」と、見て見ぬふりをしていたことが多かったと思います。

では、これからどうしていけば良いかなあ、と考えました。今回のことで、一人ひとりの小さな親切は、大きな親切になることが分かりました。だれかがこまっているのを見かけたら、「たすけてあげたい」と思う人はたくさんいると思います。わたしができることは、本当に小さなことかもしれないけれど、こまっている人がいたら、たすけてあげたいと思います。

きっと回りの人も力をかしてくれれば、大きな力になるのではないかなあ、と思いました。